

# ナセBA (市立米沢図書館・ よねざわ市民ギャラリー)



知が蓄積された本の広場

review

## 選評

第一印象、米沢の市民が利用する図書館らしさを、その確かなアイデンティティを、この建築は有していると感じた。低く小さなスケールの街並みに見事に調和し、米沢の歴史を辿るかのような知的な佇まいは多くの人に感銘を与えるにちがいない。

「ナセBA」は、中心市街地の再活性化の中核的事業のひとつとして位置づけられ、市民の文化生活の質を高める「文化が薫る」まちづくりを目指して建設された。

設計者は、長く厳しい冬期においても市民が集い交流できる「広場性」を持った図書館を提案。その具体的な空間が図書閲覧ホール、すなわち「本の広場」である。この「本の広場」は雪の反

射光のように白く柔らかな自然光に包まれた米沢らしい落ち着きと品のある、平面二七段×二七段・高さ一三段の壁面書架に囲まれた大空間となっている。中ほどに四本の薄い扁平柱が屹立し、空間の上昇性を際立たせている。一方、壁面書架は四層に分割され、各層に軽やかなデッキが巡り、大空間ではあるがヒューマンスケールの心地よさを醸し出している。

市内に点在する「まちなかギャラリー」の母船である一階の市民ギャラリーは交流広場としての役割も担っている。フルハイトのスライドガラス扉を開けると、この地方独特の「こまや」のような深い軒下空間を介して歩道へと連続し、この交流広場がまち空間と融合することが実感できる。

建築全体の断面計画は同心円状のグリッドに配置された壁柱が中心に向かって高くなってゆく階段状の構成となっている。また同心円状にずれながら配置された壁柱の重なりが広い空間をゆるやかに分節し、ゆったりとした回遊性を生み出している。それが更に軒下空間を介してまち空間へと繋がっていく。

立面を階段状にセットバックさせることにより住宅スケールのまちなみに巧みに調和させているが、平面を階層毎にずらししていくと構造計画と平面計画の整合性のとり方が難しくなる。しかし、設計図を見ても実際に空間体験をしても全く違和



北東側から望む外観



建築主より

Message from Client

米沢市長  
中川勝 Masaru Nakagawa

### これからも愛される施設として

新たな芸術文化の拠点として「ナセBA（市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー）」が開館し、3年余りが過ぎました。市内外から来場される多くの方々に、本来の文化複合施設としての利用に加え、モダンで美しい建造物の見物もお楽しみいただいております。

図書館は、2階から5階までを貫く吹抜けの大空間となっており、その全壁には、見上げるまでに高い壁面書架が配置されています。四方を本に囲まれる光景は、訪れた人を圧倒するような強い印象を与えます。

ギャラリーは、空間を様々に区切ることができ、大型作品から映像作品まで、幅広い展示を楽しむことができます。

今後は、ナセBAが新たな芸術文化との出会いの場や交流活動が展開される場としての役割を果たし、当市が目指す「文化が薫るまち」の象徴として、長く愛される施設となるよう努めてまいります。



設計者より

Message from Architect

株式会社山下設計  
常務執行役員 デザインラボ室長

安田俊也 Toshiya Yasuda

### 過去×現在→未来を紡ぐ場所

設計が始まり米沢に通い始め感じたことは、上杉景勝が約400年前に滅封された頃からのDNA「質実・勤勉」が強く残る街であることです。それは建築の方向性を定める強い要素になっています。

一般的に「図書館＝歴史を保存する場」といわれていますが、市立米沢図書館はまさにそのような機能を持つ図書館として存在していました。その存在を現代的な活動をする場へアップデートし、更に未来を紡ぐ場として、複数の時間軸を持つ活動の場とすることを目指しました。

施設の骨格は、同心円状のグリッドに配置した壁柱と階段状の断面構成による、極めてシンプルな構成です。その中に厳しい冬でも居場所になる歴史的な蔵書に囲まれた「本の広場」と自由度の高い「アートの広場」を配置し、シンプルであるが故にこれからの100年を紡ぐ持続性を持つ場を実現したいと考えました。



施工者より

Message from Builder

金子建設工業株式会社  
建築部次長

駒形行洋 Yukihiko Komagata

### 「地元の想い」を東北の力で造る

米沢市民が切望する中心市街地を活性化したいという想いを、設計者が文化生活的質を高め、街に賑わいを取り戻し「文化が薫るまち」の実現を具現化されました。その意志を忠実に再現することを負託された我々地元施工者は、地元ならではの経験とコミュニケーション能力を生かして、様々な課題を誠実にクリアすることで実現に邁進してまいりました。設計意図伝達で「木と調和した美しいコンクリート造る」を、この建築の至上命題とされました。高さのある小断面の壁柱をいかに美しく仕上げるか、非常に高いハードルでしたが、各職の技能者が、現場と真摯に向き合い、労を惜しまずやったことが、結果として今回のBCS賞の受賞につながったと思います。「地元の想い」を東北の力で実現することができました。これからも地元が発展していくことを見守っていききたいと思います。



1. 右手の先人顕彰コーナーと図書館をつなぐ階段  
2. 雨や雪をしのぎながら通行できる軒下空間領域「こまや」  
3. 可働パネルで自由な展示ができるギャラリー  
4. 子ども図書コーナー

ナセBA(市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー) 計画概要	
●建築主	米沢市
●設計者	(株)山下設計
●施工者	金子建設工業(株) (株)網代建設 白井建設工業(株)
●所在地	山形県米沢市中央1-10-6
●竣工日	2016年3月15日
●敷地面積	3,217㎡
●建築面積	2,703㎡
●延床面積	6,193㎡
●階数	地上5階
●構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造

〔選考委員〕 北川原温・山本茂義・菅順二

感がなく、意匠と構造の見事な連携が窺える。特に構造計画上のきめ細かい創意工夫が随所に見られ、建築の明快さ、シンプルシティを徹底する設計者の高度な技量と繊細な感性が特筆される。外観に温かみのある特徴を与えている地元産の一〇〇ミリ厚スギ間伐材は熱負荷を低減し、その外断熱効果によってRC打放しの内壁に結露等の問題も見られない。またこのスギ材は市有林の伐採から始め、搬出経路や乾燥方法、断熱効果の検証まで綿密に行われている。豪雪地域における降雪対策は建築の品質管理および安全管理のために必要不可欠であるが、経験豊かな地元施工者が様々なノウハウを駆使し、建築主と設計者の期待に沿った成果をあげている。現在の図書館の利用率は、当初予想の倍以上、また市民ギャラリーはほぼ一〇〇%。これから、ますます市民に親しまれる建築になってゆくことが大いに期待される。